

平成28年3月4日

徳島大学病院が、遺伝カウンセラーを4月より常勤で配置

徳島大学病院は、ますます重要性を増す遺伝医療の充実のために、平成28年4月1日より、県内で唯一、遺伝カウンセリングを専門に行ってきた「遺伝相談室」を「臨床遺伝診療部・遺伝カウンセリング外来」に改称するとともに、認定遺伝カウンセラー1名を常勤で配置することになりました。

## (報道概要)

徳島大学病院は、平成28年4月1日より、遺伝カウンセリングを専門に行う「遺伝相談室」を「臨床遺伝診療部・遺伝カウンセリング外来」に改称するとともに、全国で182名(2015年12月現在)しかいない認定遺伝カウンセラー1名を常勤で配置することになりました。

徳島大学病院は、遺伝の問題について不安や心配を持っておられる方や、本人や家族が遺伝性の病気である可能性が告げられた方などに対して、県内で唯一、認定臨床遺伝専門医が中心となり遺伝カウンセリングを行ってきました。遺伝の問題という自分とは関係ないと思われがちですが、2013年4月に母体血胎児染色体検査(いわゆる新型出生前診断、NIPT)が開始されたことや、同年5月にアメリカ女優が遺伝性乳がん卵巣がん症候群の遺伝子検査の結果を基に乳房の切除・再建手術を受けたことで、遺伝医療は実は身近な問題であることに注目が集まっています。

遺伝カウンセリング外来では、遺伝性の病気をお持ちの方やそのご家族、遺伝について不安や悩みを抱えている方々のお話を伺い、正確な情報をお伝えして、抱えている不安や疑問が少しでも解消されるよう対処法を一緒に考え、ご自身で納得のいく方針を決めていただくために、心理的・社会的なサポートも含めてお手伝いをします。専門医だけでなく、常勤の認定遺伝カウンセラーが参加することで、徳島大学病院ではよりきめの細かいサポートが可能になります。

例えば遺伝性のがんを心配される方(がんにかか<sup>か</sup>られた方やその家族)の場合であれば、家系内のがんの発生状況などから遺伝的な原因が関係しているかどうかを分析し、遺伝子検査が選択肢になる場合には、メリットとデメリットを説明した上で相談者の自立的な意思決定を支援したり、各診療科(外科や婦人科など)とともに検診計画を立てたりします。また、相談者が不安に感じることにに対しては、単に適切な遺伝学的情報の提供だけでなく、心理的、社会的サポートも必要となるため、これを専門に行う認定遺伝カウンセラーの遺伝医療における重要性

がますます増しており、四国においても各大学病院や四国がんセンター、四国子どもとおとなの医療センターで配置されたり、配置が検討されています。

徳島大学病院は、母体血胎児染色体検査が開始された当初から、遺伝カウンセリング体制を備えた施設として認定され、検査を行っています。また、遺伝性のがんなどの検査を行うことが可能です。さらに、臨床遺伝専門医の教育施設にもなっています。今後ますます重要性が増す遺伝医療を県内外のみなさまに安心して利用して頂けるよう、遺伝カウンセリングだけでなく、各診療科の遺伝診療支援や専門医教育を含めて総合的に行う「臨床遺伝診療部」として、より充実した体制づくりを行ってまいります。

**お問い合わせ先**

**部局名** 徳島大学病院

**責任者** 安井 夏生

**担当者** 総務課広報・企画係

**電話番号** 088-633-7697

**メールアドレス** bsoumuss1@tokushima-u.ac.jp